〔報　　告〕

芝草研究
J. Jpn. Soc.
Turfgrass Sci.
55（1），12 ～ 13

2025 年度日本芝生文化大賞　授与式報告
【受賞者：NPO 法人育てる芝生―イクシバ・プロジェクト】

藤　原　宣　夫
日本芝生文化大賞選考委員会委員長

Report of the Japan Turf Culture Award for 2025

Nobuo Fujiwara

2026 年 6 月 20 日，春季大会会場（東京農業大学）において，2025 年度日本芝生文化大賞の授与式が行われ，赤嶺学会長より，受賞者である NPO 法人育てる芝生―イクシバ・プロジェクト代表の尾木和子（おぎ　かずこ）さんに表彰状が手渡されました。

また，過日，東京都中央区長より祝辞が寄せられましたので，合わせて報告いたします。

1．選考過程と表彰理由

藤原宣夫：日本芝生文化大賞選考委員会委員長

日本芝生文化大賞は，広く芝生に関する事業や普及啓発に顕著な功績のあった個人または団体を表彰するものです。2008 年に創設され，受賞者がない年もありますが，これまでに 10 回，個人あるいは団体が受賞されています。

選考の手順としては，評議員による候補者の推薦を受け，選考委員会が選考し，理事会が決定します。今回は 3 団体の推薦がありましたが，選考委員会では，最も受賞にふさわしい 1 個人/団体を選考するものとして，活動内容と実績，将来的発展性，社会への発信力の大きさについて比較検討し，11 回目の受賞者として，NPO 法人育てる芝生―イクシバ・プロジェクトを選定いたしました。

イクシバ・プロジェクトは 2013 年に，東京都中央区晴海にある黎明橋公園の公園改修により公園に初めて導入された芝生の管理を市民の手で守るプロジェクトとして設立されました。以降 13 年にわたる活動により黎明橋公園にふかふかの芝生と活動を通した市民のコミュニケーションをもたらしました。また活動地を周辺の公園に拡大しつつあるほか，2022 年には NPO 法人化し，同様の活動を行う市民グループへの支援活動を行い，市民による芝生管理の試みが広がりつつあります。

選考委員会は，このような活動実績，将来性，社会発信力を，日本芝生大賞の受賞にふさわしいと判断いたしました。

2．受賞者のことば

尾木和子：NPO 法人育てる芝生―イクシバ・プロジェクト代表

このたびは，2025 年度日本芝生文化大賞という栄誉ある賞を賜り，誠にありがとうございます。日本芝生文化大賞は，芝生に関わる活動を続けてきた私たちにとって，長年憧れてきた賞です。試行錯誤を重ねてきた私たちの営みを，芝生文化の裾野を広げるものとして評価していただけたことを，心より光栄に，また大変うれしく受け止めております。

私たち NPO 法人育てる芝生―イクシバ・プロジェクトは，私が 2008 年に中央区立月島幼稚園の園庭芝生化に保護者として関わった経験を原点に，2013 年，東京都中央区晴海の黎明橋公園で，地域の人々とともに公共の芝生を守り育てる任意団体の活動として始まりました。約 2,400 平方メートルの公共芝生地を舞台に，以来 13 年間，毎週日曜日に芝刈り，除草，補植，冬芝の播種などを続けてきました。活動は延べ 615 回，参加者は子どもから大人まで延べ 7,000 人を超えます。

活動を始めた当初，私たちにとっての目標は，「芝生を劣化させず，導入時のようなコンディションに保つこと」でした。「赤ちゃんがハイハイできるような芝生」を合言葉に，地域の方々と手入れを重ねてきました。

けれども，活動を続けるうちに，芝生は単なる緑の地表面ではなく，人が集い，言葉を交わし，地域への愛着を育てる場でもあることを実感するようになりました。芝生を刈る



左：赤嶺光学会長，右：尾木和子さん

人，草を抜く人，水をまく人，子どもと一緒に参加する人，通りすがりに声をかけてくださる人。そうした一人ひとりの関わりが積み重なり，黎明橋公園の芝生は，公園施設という枠を超え，地域の人々にとって愛着のある場所へと育ってきました。

幼い子どもが安心して寝転び，裸足で遊べる芝生。近隣の方々が自分の庭のように見守る芝生。その一つひとつの風景に，天然芝が持つ社会的な価値が表れていると感じています。

芝生を良好な状態に保つためには，専門的な知見と継続的な管理が欠かせません。一方で，公共空間の芝生が地域の中で長く愛され，守られていくためには，利用する人々が手入れに関わり，芝生の変化や育てる喜びを実感する機会も大切だと考えています。そうした体験を通して，芝生は「利用する場所」から「自分たちの芝生」へと変わっていくからです。

また，地域コミュニティの希薄化が課題とされる今，地域コミュニティの形成という面から見ても，「芝生」は非常に豊かなテーマであると感じています。多様な作業を通してさまざまな人が関わることができ，季節ごとの変化を皆で見守り，その成果をともに喜ぶことができます。そこには，来年も再来年もこの芝生があり続けてほしいという願いと，そのために無理なく手入れを続けていくという命題があります。維持管理に手間がかかることさえ，人が集い，関わり続けるきっかけになります。

私たちが培ってきたのは，市民参加による芝生育てを通して，専門的な芝生管理と地域コミュニティをつなぐ実践です。

この受賞は，私たちだけのものではなく，これまで黎明橋公園の芝生に関わり，心配し，喜び，楽しみながら活動を支えてくださった皆さまとともにいただいたものと受け止めております。地域の皆さま，ボランティアの皆さま，中央区をはじめとする関係者の皆さま，そして芝生に関わる多くの専門家の皆さまに，心より御礼申し上げます。

こうした活動を続けるなかで，私たちは最近，芝生育てが持つ多面的な働きを，「幸せのインフラ育て」と表すようになりました。芝生には，心を休め，誰もが安心して集い，人とのつながりを生み，役割や挑戦を通して人を育て，市民が主体となって地域に関わる機会があります。また，芝生は暑さをやわらげ，水を受け止め，生きものを育む緑の場でもあります。こうした一つひとつが重なり，人が安心し，つながり，地域に愛着を持つための「幸せのインフラ」になるのではないかと感じています。

今回の受賞によって，私たちは，芝生を通じて喜びを得る地域やコミュニティをさらに増やしていくという，新たな使命をいただいた思いです。黎明橋公園で育ってきたこの実践が，人々が芝生に関わり，芝生を好きになり，それぞれの地域で芝生を守り育てていくための一つの足がかりとなることを願っています。

これからも，「芝生育ては，幸せのインフラ育て」という思いを胸に，天然芝の価値を，子どもたちの裸足の記憶へ，地域の人々の愛着へ，そして未来の芝生文化へとつなげてまいります。

このたびは誠にありがとうございました。

3. お祝いのことば

山本泰人：東京都中央区長



山本泰人：東京都中央区長

NPO 法人育てる芝生―イクシバ・プロジェクトの皆様，この度は日本芝草学会による「日本芝生文化大賞」の受賞，誠におめでとうございます。

本区で活動されている尾木和子様をはじめとする皆様の主体的な取組が，芝草学の専門家の方々から極めて高い評価を受け，このような栄えある賞に輝きましたことは，中央区長としてこの上ない喜びであり，大きな誇りであります。

イクシバ・プロジェクトが活動されている中央区立黎明橋公園は，平成 25 年の改修を機に，地元の晴海連合町会を中心とした近隣住民の皆様による芝生の維持管理活動が始まりました。当初，一参加者として加わっていたイクシバ・プロジェクトの皆様は，令和 6 年度からは本区の「公園自主管理制度」に基づき，活動の主体として運営を一手に担われています。

皆様が掲げる「赤ちゃんが安心してハイハイ出来る，柔らかで気持ち良く，長持ちする芝生」を目標に，活動日には子どもから大人まで幅広い世代の方々が参加し，芝刈りや除草，種まきなどを通じて，都市部で希薄になりがちな「隣人との繋がり」を再構築されています。これはまさに，芝生が媒体となって地域コミュニティを醸成する「芝生の持つ社会的価値」を体現した活動であると確信しております。

都内随一の水辺空間を有する中央区は都心に位置し，高度な土地利用が進む中で定住人口は増加しており，一人当たりの公園面積の確保が重要な課題となっています。このため，区では，民間への緑化助成などの取組を推進し，「緑の量の拡大」を図るとともに，芝生広場や多目的広場，水景施設，安全な遊具広場などを整備し，「公園の質の向上」に努めています。

特に，住民が公園の管理運営に関わる「自主管理制度」や，ボランティアによる「緑のアダプト活動」は，行政主導の維持管理から一歩踏み込み，区民自らが公共空間に愛着を持ち，育てる仕組みであり，イクシバ・プロジェクトをはじめとする区民の皆様による取組を継続・発展させることで，本区が目指す「水とみどりにあふれる，やすらぎと憩いのまちづくり」がさらに進むことを期待しております。

芝生には，都市の景観を彩り，人々の心に安らぎを与えるだけでなく，多様な人々を惹きつけ，交流を生み出す力があります。区ではこれからも，公園が地域コミュニティの中心となるよう，質の高い整備と活動支援に取り組み，良好なまちづくりを推進してまいります。

結びに，尾木様，そしてイクシバ・プロジェクトの皆様の今後ますますのご活躍と，日本芝草学会のさらなる発展を祈念いたしまして，お祝いの言葉とさせていただきます。